

前回の意見に対する検討状況について

項目	発言内容	会議での回答	補足・備考
報告事項 (6) 前年度の意見に対する検討状況について	前年度提案した免許返納者の家族割引について「費用が多額になるため難しい」と書面回答のみで済ませることは、協議の趣旨から大きく外れていると感じた。協議と採決をする方法が明瞭でなく、補助金を得るために書面を整えるためだけの協議会であると感じるが、協議会のあり方自体を見直していただきたい。	本資料は現時点での対応を整理しており、本件についても引き続き検討をしていく必要があると考えている。協議事項は、この協議会で提案し皆様からご意見を受けて修正し、その都度、委員の皆様への承認をいただきながら確定している。 運営方法も含めて議題を協議会に出すルール等を話し合っていきたい。細かい意見も含めた作業部会での協議の上で、協議会で報告に至っているが、利用者目線での配慮不足も確認できたため、作業部会に利用者を加える対応などを事務局と検討していきたい。	協議会では、作業部会において実施内容や財源について検討された実施目途のついた事業についてお諮りし、各立場の委員から意見をいただき、必要に応じて修正し、最終的には、議決により事業の実施を判断していくものと考えている。 利用者の声等については、市で行っている「市民の声」や「利用者へのアンケート」、「未来会議」や「地区要望」等でお聞きしており、協議会における各委員からのご意見についても作業部会での事業検討に反映させている。 協議会の議題に挙がってこないものについては、利用状況や必要性、財源等の観点において、その時点において事業目途がつかないということを御理解いただきたい。
同上	おでかけ定期を想定するのではなく、返納者の家族割引に限定すれば経費が把握しやすい。具体的な予算を市民に提示し、市民の意識を高める説明により、実施可能な方法を一緒に探りたい。	広報での周知や住民との意見交換の場を設けるなど、事務局が進める新たな取組も評価していただけると、富山市の事例や家族割引について、本市で具体的に試算し検討へと話が進むように考える。富山市の事例を参考として、既に試算しているため、次の協議会で具体的な費用を提示できるか確認したい。	【富山市事例：おでかけ定期券】 富山市内在住の65歳以上の方が、日中（9～17時）の時間帯で中心市街地に出かける際に市内の路線バス、電車、市内電車等に100円/回で乗ることができる（利用できるバス停、駅に制限あり）。 （利用者負担金1,000円/年度） 【黒部市で上記事業を実施した場合の試算】 《黒部市負担額》 鉄道分の差額負担 43,000千円 （1,400人×96回×320円） バス分の差額負担 5,000千円 （生活路線の運賃収入の50%を想定） システム維持費等 9,000千円 計 57,000千円 上記のほか、システム導入費等が必要 公共交通については、既に利用者の負担が少なくなるよう公的支援により運賃が抑えられているものも多い。左記のように自動車を使う生活と公共交通を使う生活を比較しても費用的に公共交通のほうが安価であり、自動車を使う生活は、年齢とともにリスクも上昇する。 公共交通を促進する立場から、左記のような車を使う生活から公共交通を使う生活にライフスタイルを変えることのメリットを周知する。

【参考】

<p>自動車の維持費 【例】200万円の車両を購入して7年使用した場合 車両（200万円/7年間）＋ 税金（7万円/年）＋ 車検（5万円/年）＋ 駐車場（6万円/年）＋ 保険料（10万円/年）≒560,000円/年 ➡所有しているだけで上記の費用がかかる。</p> <p>そのほか、ガソリン代、定期点検代もかかる。使い方によっては、高速代、修繕費等がかかる場合がある。</p> <p>高齢になると運動能力や判断能力の低下等により、事故を起こすリスクや交通違反をしまうリスクも出てくる。</p>	<p>公共交通の経費 【例】新幹線市街地線(300円区間)を毎日往復利用した場合 (300円×2回/日)×365日 =219,000円/年</p>
---	---